



学校だより

唐津市立加唐小中学校
第7号

令和元年10月17日発行
文責 校長 井上 英史

総合学習で「ツバキの実収穫体験」を行いました！

9月12日(木)、全校でツバキの実の収穫体験を行いました。この日は徳村区長さん、西育友会会長さんにもお手伝いいただきました。実の中の種が目当てなのですが、まだ、あおくて割れていない実を摘んでいきました。収穫した実は学校に帰った後、コンクリートの上に広げていきました。徳村区長さん曰く「実は1、2日で割れて種が中から出てくる！」と言われていました。助言通り、数日でほとんどの実が割れて(写真参照)、中から種を取り出すことができました。最終的にはバケツ1杯分のツバキの実が収穫できました。この実は島が買い取ってくれるそうです。わずかな椿油しか絞り出すことはできないかもしれませんが。得られたお金をどう島のために活用するか、新たな学校での取り組みがスタートします！



愛鳥モデル校事業「ハチクマの観察会」を行いました！

9月26日(木)、日本野鳥の会佐賀県支部の宮原支部長はじめ3名の講師をお迎えして、ハチクマの観察会を実施しました。ハチクマとは「ハチを喰うクマタカ=ハチクマ」という意味です。タカの仲間、夏の間日本で営巣し子育てをします。冬は大陸を経由して温かい地域へと移動します。その移動、つまり「渡り」の時期(春と秋)に加唐島上空を通過します。この日はあいにくの天気で、ハチクマの渡りの様子を観察することはできませんでしたが、櫓木観音の岩場で営巣するミサゴを観察することができました。次回の観察会は春。その際にはハチクマに会いたいと願っています。さて、ハチクマとトビは大きさや色がとても似ていますが、ハチクマはバチのような形をした尾羽(右の写真)で見分けることができます。



「へき地教育」に係る研究発表会を開催しました！

10月4日(金)、島外から34名のお客様をお迎えして、本校が昨年度から行ってきた「へき地教育」の研究発表会を開催いたしました。3時限目は小学校の島崎智朗教諭、4時限目は中学校の古賀義則教諭が提案授業を行いました。多くの参観者で教室に入りきれない方々(写真参照)は廊下からの参観となりました。午後は、図書室での研究協議。限られた時間の中で、本校が取り組んでいる「実践的コミュニケーション能力の育成」というテーマについて白熱した協議が行われました。その後は国立教育政策研究所の教育課程調査官、上野耕史先生のご講演を拝聴しました。上野調査官は、へき地教育こそが教育の原点であると強く訴えられ、私たちへき地教育に携わる者に大きなエールをいただきました。今後も一人ひとりを大切にしたいへき地教育を推進していく自信となりました。



チャドクガの幼虫を駆除しました！

9月下旬、島民の方からの情報で、チャドクガの幼虫が学校のツバキに大量発生していることが判明しました。刺されれば、赤く腫れあがり、かゆくてかゆくてたまらない状態が続きます。衣服に刺が残っていても大変です。調べてみたら、あちこちのツバキの葉が幼虫に食い荒らされ、無残な姿となっていました。これ以上の被害を食い止めるべく、翌日、噴霧器等の機材を購入して徹底した消毒を行いました。学校施設の管理者としてはよき教訓となりました。ツバキの実を拾う際に刺された島民の方もおられたとか…。お見舞い申し上げます。（写真は Wikipedia より）



加唐小中学校 文化祭へのお誘い

10月19日（土）、待ちに待った今年度の文化祭を開催します。今年度のスローガンは「新たな種」です。日頃の学習の成果を発表するのが文化祭ですが、今年度は英語暗唱、理科研究発表、国語暗唱、職場体験発表、ダンスなど盛りだくさん！もちろん、大好評の小中学校寄席や保育所からの劇や歌の発表、島民の方からの発表などもあります。時間は8:40～11:50までを予定。ぜひお越しください。お待ちしております！

世界一、日本一がやってくる！「折り紙ヒコーキ教室」のご案内

11月2日（土）、加唐島に折り紙ヒコーキの世界一と日本一の方々がやってきます！世界一は滞空時間のギネス記録 29.2 秒を持つ折り紙ヒコーキ協会の会長、戸田拓夫氏（右写真、広島県福山市在住）。そして日本一は距離競技日本一の藤原宣明氏（同協会事務局長）。教室は15時30分～17時30分までの2時間、加唐小中学校の体育館で折り紙ヒコーキ教室の指導をしていただきます。ぜひ世界一、日本一の技をご覧ください、折り紙ヒコーキの魅力を体感していただきたいと願っています。参加は無料で島内外を問わず、どなたでも参加いただけます。申込みは加唐小中学校（Tel 0955-82-9303）の井上までお願いします。教室終了後、呼子まで戻られる方はチャーター船の手配をしており、乗船代金については割り勘でのお世話を担当者が致します。



加唐島・松島の草花たち(14) 「ムベ」

甘く熟した果実をつけるため、人々にも馴染み深く、“むんべ”等のさまざまな呼び名を持つムベ。熟すと実の表面が赤紫に色づき、食べ頃を教えてください。アケビと違って実が裂けることはありませんが、実を割ってみると中身はアケビそっくりで、アケビの仲間（アケビ科）だとわかります。アケビが10月上旬に熟すのに対し、ムベはおよそ1か月遅れて熟します。また、アケビは落葉性ですが、ムベは常緑性で、写真のように葉は厚く光沢があり、濃い緑色をしています。沿岸部に多く、加唐島や松島にも多く自生しています。食べると長生きするとの言い伝えから「不老不死」の実として皇室にも献上されてきました。



11月の主な行事予定

1(金) 合同朝会、授業参観、マラソン・ゲートボール大会、入試説明会 **5(火)** 食育推進委員会、**7(木)**・**8(金)** 中学校実力テスト **12(火)** 中学校薬物乱用防止教室 **16(土)**・**17(日)** 鎮西地区市民文化祭（作品展示）
20(水) 育友会研修視察 **21(木)** 松島島内清掃 **27(水)～29(金)** 期末テスト